

12月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small>		報告者	大矢康裕	参加 メンバー	CL:大矢康裕
		報告日	12/12		
山域	御嶽山	山行日	07年 11月 30日(金) ~		
山名	御嶽山		07年 12月 01日(土)		

山行目的	体力養成、雪上歩行トレーニング	コースタイム(天候:天気図記号)
------	-----------------	------------------

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1地図: 御岳高原、御嶽山

11/30 快晴	13:10 発
20:05 名大発	13:30 王滝頂上
23:40 田の原	アイゼン脱
	14:40 赤っぱげ
12/1 快晴 曇	14:50 発
6:45 起床	16:00 スキー場着
7:30 スキー場発	19:30 名古屋着
8:30 一本	
8:40 発	
9:30 田の原	
9:45 遥拝所	
9:55 発	
10:25 赤っぱげ	
10:50 8合目	
11:00 発	
11:35 9合目	
11:40 アイゼン着	
12:30 王滝頂上	
13:00 剣が峰	

山行報告 前日、夜8時まで名大道場にて2時間の空手練習で汗を流した後、そのまま御岳スキー場に向かう。大陸からの高気圧が張り出し、好天を期待。満天の星空の御岳スキーに到着、空手練習で疲れた身体にエネルギー充填、明日の英気を養う。今回はスキー場の営業前で、御岳スキー場(1680m)から Gondola 終点(2240m)までの560mを追加で登る。翌日、中央アルプスからの日の出にせかされるように準備を急ぎ、7時半に出発。1ピッチ登ると、乗鞍岳と穂高連峰が樹林の向こうに雄姿を現す。思ったよりゲレンデの登りはきつく且つ長く、特に最後の Gondola 終点直下の登りは体力を消耗した。麓から2ピッチ近くかかって、やっとの思いで Gondola 終点に辿り着くと、あとは少し下ると田の原だ。1ヶ月ぶりの御嶽山は前回来た時より雪は多いが、南斜面のため融けてしまったのか予想より少ない。田の原から緩やかに登る雪の登山道に行く。やがて樹林帯に入り、ところどころ吹き溜まりで、ずぼっと嵌るところがあり歩きにくい。トレースは、比較的新しいものが付いており、昨日誰か登ったようだ。『赤っぱげ』を過ぎると樹林が切れ始め、やがて稜線に出る。稜線の方が雪は少なく、8合目付近はあまり雪がない。この時期にしては暖かいためか、雪質は柔らかく、歩きにくい。9合目から傾斜が急になったためアイゼン装着。しかし、雪が腐っているため、アイゼンがすぐダンゴになってしまい、往生する。王滝頂上に近づくと、次第に雪がクラストし始め、アイゼンが効き出した。王滝頂上山荘直下の急登を喘ぎつつ登ると、やっとのことで王滝頂上に出

た。移動性高気圧の圏内に覆われているためか、珍しく風も穏やかで寒さを感じない。いつもの事ながら、頂上のすぐ下にある旭館の登りは吹き溜まりになっているためか、雪がたっぷり付いている。その上の頂上直下の階段も完全に埋まっている。逆八の字歩行で登り終わると、誰一人いない私だけの頂上である。最後まで誰一人出会うこともなく、独り占めとなった贅沢なひと時を十分に堪能して、剣が峰を後にする。

リーダー所見 標高差 1400m の登降は大変登り甲斐があり、キリマンジャロ頂上アタック日のシミュレーションのための良いトレーニングができたと思う。また、万一、キリマンジャロ頂上付近で積雪があった時のための雪上歩行トレーニングにもなった。この充実感を他の人と分かち合えなかったのが、唯一の心残りである。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



誰もいない頂上で一人スナップショット

確認 (リーダー)
大
07/12/02
矢
作成 (報告者)
大
07/12/02
矢